



よいことの
ために
手を取りあおう



RI 会長：フランチェスコ・アレツォ

2620 地区ガバナー：稲葉 雅之

会長：齋藤 高子 幹事：植山 和人 会場監督：妻鹿 政光

例会：毎週金曜日 19:00 ~ 20:00

グランドホテル浜松 〒432-8507 浜松市中央区東伊場 1-3-1 Tel: 053-450-3003 Fax: 053-450-3006

E-Mail: hamamatsu-naka@ri2620.gr.jp

2025年11月21日（金） 晴 第1714回例会 週報 NO. 14

司 会：鈴木とも子 会場監督補佐
点 鐘：齋藤 高子 会長
ロータリーソング「我らの生業」
ソングリーダー 鷹尾政夫さん
四つのテスト唱和 建部仁洋さん
シェークハンド・タイム

ゲスト

元ジュビロ磐田 山田大記 様

会長挨拶



先週の土日は社会奉仕活動として、アマモ再生プロジェクトにたくさんの方のご参加ありがとうございました。2日間、皆様に種を植えるという体験をしていただき、これが育って2月の移植を待つばかりです。その間大切に育てていきたいと思っています。ちなみに私の家で預かっている4本のピンは9本の芽が出ていて、毎日家に帰ると声をかけています。微力ながらこのアマモの活動が地域の方に少しでも広まってくれればと思います。

本日は元Jリーガー、日本代表選手の山田大記さんの卓話です。貴重なお話をしていただけると思っています。

次回皆さんにお目にかかるのは12月の地区大会となります。久しぶりに、皆さんとバスで米山梅吉

記念館の訪問と地区大会に行くわけですが、充実した2日間になることを願っています。よろしくお願いします。

幹事報告



・11月28日は祝日週による休会、12月5日も例会変更による休会となります。

・次回例会は12月6・7日の米山梅吉記念館訪問及び地区大会になります。当日は10時45分グランドホテル集合です。

・12月12日は年次総会です。案内を流しますので、欠席の場合は委任状をお願いします。

・次回理事会は12月12日です。

ポールハリスフェロー表彰

*PHF+4（累計5000ドル）

・竹内公一さん ・鈴木晴夫さん
・中山和彦さん ・鈴木修さん
・中村智次さん ・田邊芳一さん
・佐藤芳一さん



スマイル

♪齋藤高子さん・植山和人さん

本日は地域みんなで子どもたちを支える「浜松こども基金」の活動をしている元Jリーガー山田大記さんの卓話です。お話を聞いて、協力できることはしていきたいと思います。

先週のアマモ種付けに参加いただいた皆さん、ありがとうございました。来年2月には植え付けできるように大切に育てます。



卓話「浜松こども基金について」

☆ゲスト紹介：植山和人 幹事



浜松市出身、36歳。ジュビロジュニア、ユース、藤枝東高校、明治大学の各チームで活躍し、2011年ジュビロに入団、日本代表にも選出される。2014年、ドイツブンデスリーグに移籍。2017年磐田ジュビロに復帰し、昨年引退。現在はジュビロ磐田のチームフットボールオフィサー。NPO法人

ReFrame を立ち上げ、浜松を中心に子どもや親を支える活動をしています。

＊＊山田大記 様



こども基金を来年立ち上げることが決まっています。それについて話をさせていただきます。

ReFrame はこどもの貧困に向き合う NPO 法人です。現役の選手も二人、後はプロボノなどと一緒に運営をしています。基本的には子ども食堂を月 2 回、衣食住の多面的支援、習い事の体験機会の提供などの活動です。子ども食堂をやる時は食事の前に遊びの時間があり、英会話の先生とカードゲームをしたりします。

活動のきっかけは 10 年ほど前に始めた児童養護施設の訪問です。その頃ドイツにいましたが、選手たちが地域の人たちのために社会貢献をしている姿に感銘を受けました。自分も何かやりたいと、一時帰国した時に養護施設を訪問するようになりました。

ジュビロに復帰した後も訪問したり、ジュビロの試合に招待したりしていましたが、その時サッカーの上手な小 3 の男の子に出会いました。その子は「僕はこういうところにいるから、サッカー選手の夢は諦めた」というのです。普通なら将来にまだ夢を描いている年齢なのに、自分の置かれている環境を客観的に見て夢は目指せないと思っていることに心を痛めました。それまでいろいろ交流をして喜ばれて、少しい気になっていたのではないかと。思い付きで表面的に活動をしていた自分を深く反省しました。その半年後に法人を設立。子どもたちの深刻な状況を様々な場面で目の当たりにし、このままでは自分たちの活動が足りないと感じました。それで、「浜松こども基金」を立ち上げて、子どもたちの現状を変える活動を始めました。

ReFrame という法人の中で、自分たちが子ども支援を行う一方で、「子ども基金」では、ほかの活動団体の後方支援を目指します。貧困課題に対して自分たちは活動しますが、子ども基金については貧困以外でも子どもたちをサポートしていきます。

日本の子どもたちの現状ですが、100 人の子どものうち 14 人、つまり 7 人に一人が貧困の問題を抱えています。そのほか虐待、いじめなど何かの支援が必要を受けている子供たちもいます。日本語指導が必要な外国人の子どももいます。あとはヤングケアラーも深刻化しています。ヤングケアラーは定義づけが難しいのですが、かなりの数がいます。こうして 3 人に 1 人が何かしらの困難を抱えているのが日本の実情です。

子どもの貧困については 40 年前から改善はされていません。浜松市では、ひとり親世帯が増え、生活困窮家庭が 40%、それに近い家庭が 25%という現状です。この数字を見ると、本当にこんなにたくさんの子がいるのかと思います。この活動を始めた時に言われたのは「子どもの貧困は目に見えない」ということです。例えば、近くではなく、わざわざ遠くの子ども食堂に来る人もいます。外から見て、貧困だと気づかれないよう生活しているので、まさに「コップの中の嵐」です。世帯の貯蓄が 5 万円以内で、急な支出に対応できない人たちも多くいます。それが外に出てこないのが貧困家庭の特徴と言われています。もう一つの特徴は世代間で連鎖してしまうということです。大人になってもまた貧困世帯に陥ってしまう確率が高いのです。

私たちは今の貧困も何とかしたいのですが、それだけでなく世代連鎖を食い止めることを意識して活動しています。



課題の解決のためには課題の構造を分析しないとけません。子育てが孤立して、周りに頼れる人がいないという大きな傾向があります。時間がなくて、お金が稼げない。貧困がいじめや不登校になり、子どもの心を痛めてしまう例もあります。経済的に苦しい時に、子供に八つ当たりをしてしまう、それで自己嫌悪に陥ってしまう親もいます。それが子どもにも伝染し、自己肯定感の低い子どもになっています。自分で可能性を閉ざしてしまっているのです。

保護者にもいろいろ課題があり、子どもも事情があり、それらが複雑に絡み合い、貧困の連鎖が生まれているのも子どもを取り巻く貧困課題の特徴です。まず課題を分類し、課題にしっかり対応する形で支援を届けることが大切です。衣食住を支えること、親御さんの心に寄り添うこと、子どもさんに成功体験を提供するなど、多面的な支援が必要です。

子ども食堂でしっかり栄養を取れてもそれで家庭の問題が解決するわけではないのです。様々な角度から多面的に、しかも持続的に支援をしなければ、この課題は解決できないと言われています。

こういう話をすると、それは政治や御製のすることホームレスや生活保護のような絶対的貧困とは対照的に、相対的貧困はぎりぎり生活はできるけれど、著しくお金が足りていないという人たちで、その数も多いです。浜松市でも 1 万人以上子供がいると言われています。その家庭全部に公的支援を行うのは簡単ではなく、絶対的貧困は国が保証するにしても、相対的貧困は民間が埋めないと解決が難しいのです。

一般的に支援団体の実情は、資金不足が一番の問題に挙がり、それから人手不足の問題もあります。ボランティアで運営していますが、限界があります。発信力の不足もあり、知ってもらえれば援助もあるけれど、そこが十分ではありません。団体同士のネットワーク、横の繋がりががないのも問題です。一つの団体で多面的支援を行うのはなかなか厳しいです。多く

皆さん素晴らしい思いで活動している一方で、支援現場の実情はうまくいっていません。

浜松こども基金としては、支援団体の困りごと四つに対応したいです。資金の提供、人の提供、活動を広く世間に知らせる広報活動、横のつながりを作るネットワークの構築です。その中でお金が一番重要だと思いますので、その説明をします。

まず資金を調達し、皆さんの納得いく形でお金を出しています。今はそれに向けて準備をしています。来年以降本格的に行いますが、寄付型商品を持続的な資金調達の手段として考えています。寄付型自販機というのがあって、今、五社神社付近でテスト運用をしています。これで買ってもらうと、1本がいくらかの寄付になります。

導入を進めているのが、歯医者さんの医療行為で出る金属を換金して、その一部を子ども基金に寄付してもらうという活動で、今14医院が賛同してくれています。

助成金の出し方は、4つの領域を言う基準を設けたうえで、簡易的な申請プロセスを大事にしています。全国的に助成金の申請はとてもうるさくて、書類をいろいろ必要として、申請する手間です。ですから、そこを簡単にし、その代わりに審査をするのは、信頼関係があり情報をしっかり持った人をお願いします。また現金だけでなく、現物の支援もやっていくことで、より支援がしやすいと考えます。

現状、3人に一人が困っていて、支援団体もしっかりやっているけれど、限定的支援に留まり、十分な支援が届けられていません。いくつかの支援団体は全国的な支援を得ていますが、期間が限られていて、この期間が過ぎたら支援活動ができなくなります。支援の持続のためには、浜松市の中で資金を調達し、浜松市の中で回して行くことが必要です。

浜松こども基金が真中に立ち

資金や人の調達をしていきます。それによって支援団体の人たちが様々な問題を解決して、子どもたちに多面的な支援ができるようにするのが私たちのコンセプトです。

地域みんなで支える仕組みにしたいですが、皆さんそれぞれご事情の中で、問題を知ることによって自分にできる形で活動に関わる、その仕組みを作りたいと考えています。

支え合いにより、子どもたちの未来を守ることがミッションです。困ったときはお互い様で、人生のいろんな波を支えていくことを考えています。昔はもっと気楽に隣近所で助け合っていたと思うのです。

来年正式発足のための準備を進める中で、発起人を募集しています。今年一年間、1万円以上の寄付を頂いた方を「発起人」としていて、発起人の関わり方はいろいろです。目標は1000人です。一人の1000万円より、1000人の1万円を合言葉にしています。みんなで少しずつ出しあって、みんなで思いを一つにして立ち上げていきたいと考えています。お金だけでなく、いろいろな形で関わっていける仕組みも考えていきたいです。

本当に困っている子供が多いので、今後様々な形でかかわっていただけたらと思います。



SAA 司会 鈴木とも子さん



ソングリーダー 鷹尾政夫さん



「四つのテスト」 建部仁洋さん

出席報告

発表：渡辺 豪 出席委員

会員数	41名
出席者数	22名
出席算定会員数	35名
出席率	62.86%

前々回出席者数
25名
前々回出席率
75.76%

